

あなたの最近・・・を
きかせてください。



原 澄子さん作の短歌を紹介します。

皆さんの“日常”や“今”を気軽に
分かちあってください。

新しい広報部代表を迎えて

今井 章夫

「唐崎のきずな」が初めて発行されたのは、久嶋さんが教会代表をして頂いた時かと記憶しており、A4一頁の「お知らせ」から始まったと思います。その後、私が編集を担当する事になり、80号くらいまで続けさせて頂きました。発行に関して、谷口様、夫婦、岩崎さん奥様、池田奥様、はじめ西田様、本田様、など印刷する当日には色々な方が駆けつけて下さり、そのご協力の基に合作と言う形で作り上げました。私の悪い性格がもろに出て数えきれないご迷惑をかけた17年余りの歳月でした。発行についての「テーマ」もその都度女性軍が考え下さり、また原稿集めも大変な事ですが身を粉にして集めて頂き頂きました。私が担当した当時は、教区全体の問題として信者の皆さんに教会の情報伝わらない所謂「水詰まり」が起きていると盛んに言われており、教会の皆さんに「水の通り」を何とかを良くしたいとの思いがありました。当時は会長が指揮をとり、毎月役員会を開いておりました関係上、議事録的な「お知らせ」をしたいと、最初は二か月毎に「唐崎のきずな」として発行しておりました。それも次第に無理となり、現在の復活祭号、

短歌 原 澄子
 唐崎教会に移り人々のフレンドリーなる厚意に安らぐ
 ウクライナの子等思いつつ見上げれば団地の空に鯉鱈泳ぐ
 ウクライナ國に残りし夫と家族に会える日われは願えり
 たつぷりと平靴に履る若人対岸の火事ではなむウクライナ
 トルコ地震救助する人助かる人助まるの声寒風にひびく
 コロナ渦もマスクを付けて地を踏む朝の日課のウォーキング
 満席のしだれ桜をやすむ風花のさついでコロナを流せ
 春めくも楽しかろうや老つまいりだれ桜と小鳥が揺する
 逝まし息子の命日のあき露草にひもと鳴き初むコロロかいて
 空の息子の部屋にコロナとなんた風のををたたく日
 雪の上に散りし山茶花まぶしかり寒さ忘れしはし和むる

編集後記

大先輩から励ましのお言葉、恐悦至極に存じます。我々の日常は、神様からの賜物であり、皆様の多様な考え方・声などを感謝と共に自由な雰囲気、各世代が、誌面を通して交流できれば幸いです。

安土城跡で「令和の大調査」が開始、ローマ教皇庁に協力を依頼すると報道がありました。織田信長や徳川家康などの戦国大名が、映画や大河ドラマで注目されています。そこで、

戦国・安土アンケートにご協力下さい

あなたは「信長と家康」のどちら派ですか？
 回答はQRコードを読み取るか、手書きの場合は広報担当までお知らせください。

※ お名前は不要です。

